

目的 健康で快適な衣服を追求し、演者らは久しく着衣調査を進めてきたが、それらの実態の変遷をたどり、実情を把握して、今後の被服教育と研究に役立たせるべく、本調査研究を実施した。約20年前（1968～1969年）に実施した女子大学生の着衣調査と、今回（1986～1987年）の着衣調査との比較に於て、本報では夏季の着衣実態について若干の成績を得たので報告する。

方法 調査は京阪神に居住する健康な女子大学生（18～19才）を対象とし、1968～1969年 121名、1986～1987年 125名について、毎月中旬に調査用紙を配布し、記入せしめた。調査内容の概要は、1) 年齢、身長、体重 2) 気温、湿度、暖房冷房の有無、寒暑感覚等 3) 衣服重量、衿開き、袖丈、衣服丈、材質、デザイン等 4) 靴下手袋等、類被服の重量、材質、デザイン 5) 靴類、傘類の重量、である。今回は、夏季（6,7,8月）における調査結果を集計し、比較検討を行った。

結果 1) 先年に比し、今回は平均身長では 0,8cm、平均体重では 0,4kg 増加しているが、ローレル指数は減少している。2) 衣服重量は先年対比0,86、単位体表面積(1 m<sup>2</sup>)当たりの衣服重量は先年対比0,85、部位別衣服重量は、肩重量では先年対比0,91、腰重量では先年対比0,85である。3) 衣服着用総枚数は、先年に比し 0,5枚減である。部位別衣服着用枚数は先年に比し、上半身では 0,9枚減、下半身では 0,5枚増、腹腰部では 1,1枚減である。4) 寒暑感覚は先年に比し、衣服重量の減少にも拘わらず、若干今回の調査結果では耐暑感が劣っている。これらについて更に検討し、報告する。